

地理歴史科（地理総合） 学 習 指 導 案

実施日時: 令和6年11月8日 金曜日 第6限目（14時25分～15時15分）

実施学級: 普通科1年7組（17H） 40名（男子24名，女子16名）

教室・場所: 地歴公民講義室（4階校舎2F）

授業者名: 銚谷 寿一

1 単元名

地理総合

大項目B「国際理解と国際協力」

使用教材

教科書『高等学校 新地理総合』（帝国書院）

地 図『新詳高等地図』（帝国書院）

副教材『新詳地理資料 COMPLETE 2024』

授業者作成プリント

2 小単元・題材名

第2章 地球的課題と国際協力

「人口問題」

3 題材について

（1）生徒観

授業クラスは1年生の17Hで、地理歴史科については4月の入学以降、必修修科目である地理総合と歴史総合の2科目をそれぞれ週2時間ずつ履修している。本校は普通科高校であり、多くの生徒が大学進学を志望しているが、該当クラスは特に進学やそれに向けた学習への意欲が強い生徒が多い。一方で、部活動や生徒会活動といった課外活動にも熱心に取り組む生徒も多く、学習との両立に苦労や悩んでいる生徒も少なくない。地歴公民の学習については、基礎的な知識が定着していなかったり、定着していたとしても受動的な学習に留まっていたりする生徒も一定数見られる。そこで、思考力や表現力を十分に活用させながら、自ら課題を持って授業に参加する態度や、積極的に自分の意見を発表する力を育成することが課題である。全体的には授業に対する姿勢は非常に良好で、教師の発問に対する反応も良い。言語活動を活発に行うことで思考力や表現力の育成を促し、進学のための学力に留まらず、教科書で学んだことを社会とつなげて考え、生きる力を身に付けさせたい。

（2）小単元において育成を目指す生徒の資質・能力

- ア 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。（知識・技能）
- イ 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。（知識・技能）
- ウ 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、紛争の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。（思考・判断・表現）
- エ 授業で学んだ地理的な諸事象について、公民としてよりよい社会の実現を視野に主体的に追究・解決しようとする態度を養う。（主体的に学習に取り組む態度）

（3）（1）の達成に向けた授業改善のポイントや工夫

- ア 考えるための問いを設定し、一人一人の生徒が主体的に授業に参加し、考察できるように工夫する。
- イ 自ら考察したことを話し合い、意見を出し合う場面を設定することで、協働する力や議論する力を育成できるように工夫する。
- ウ ICTを活用することで、資料の分かりやすい提示により理解を深めるとともに、問いを明確に提示する工夫を行う。

4 小単元の見目標

- (1) 人口分布の地域差について、自然環境や社会・経済の形態などの地域性から理解する。
- (2) 発展途上国と先進国を対比させながら人口問題の概要とその背景について理解するとともに、国際的な人口移動の要因について考察し、経緯とその背景について理解する。
- (3) インドや中国を事例に発展途上国における人口問題とその対策について、フランスや北欧諸国、日本を例に先進国における人口問題とその対策について、それぞれ現状を理解するとともに、その背景や問題点について、主体的に追究しようとする。

5 小単元の評価規準（高等学校学習指導要領解説「地理歴史編」を参照）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観するとともに、その解決には持続可能な社会の実現を目指す各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解している。	世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、紛争の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	よりよい社会の実現を視野に、見通しを持って課題に取り組むとともに、自身の問いと関連付けながら、主体的に追究しようとしている。

6 小単元の指導と評価の計画（全3時間）

時	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第1時 本時	- 世界の人口について分布を理解するとともに、居住地域と無居住地域がどのように分布しているのか考察する。 - 人口増減の型が社会の発展によって変化していくことを理解するとともに、変化の要因について考察し、協議してまとめる。	●	●	○	○主題図を読み取ることで分布の傾向を考察し、特に無居住地域の特徴について理解している。（ワークシート） ○人口転換が生じる要因について考察し、周囲と意見を交わし、考察を深めている。（ワークシート・ペーパーテスト）
第2時	- 発展途上国と先進国を対比させながら人口問題の概要とその背景について理解する。 - 人口移動が生じる要因について考察し、協議してまとめる。	●	●	○	●先進国と発展途上国の持つ背景の違いを考察し、理解している。（ワークシート） ○人口移動の生じる要因について、歴史的な背景や社会情勢と関連付けながら考察を深めている。（ワークシート・ペーパーテスト）
第3時	- 発展途上国における具体的な人口問題の現状とその対策について理解する。 - 先進国における具体的な人口問題の現状とその対策について理解する。 - 両地域における人口問題の背景や問題点について、主体的に追究しようとする。	●	●	○	●各国が抱える個別の背景や事情について理解している。（ワークシート） ○人口問題の解決を図るための方策について、周囲と意見を交わし、考察を深めている。（ワークシート・ペーパーテスト）

（知：知識・技能，思：思考・判断・表現，態：主体的に学習に取り組む態度 ○：評定に用いる評価，●：授業改善につなげる評価）

7 本時の実際

(1) 本時の目標 「世界の人口」

- 世界の人口分布について、主題図を読み取ることでその傾向について理解する。（知識・技能）
- 無居住地域が分布している地域はどのような場所であるのか考察する。（思考・判断・表現）
- 人口増減の型について理解するとともに、その型が社会の発展によって変化していくことを理解する。（知識・技能）
- 人口増減の変化の要因について考察し、協議してまとめる。（思考・判断・表現）

(2) 本時の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	知	思	態	評価の観点等
導入	2分	- あいさつ・出席確認 - これまでの授業の振り返り	- 服装を整えさせる。 - 生徒の健康状態等を把握する。				
展開Ⅰ	11分	- 本時のテーマ（世界の人口）の確認 【本時の学習課題】地球上で人口密度の高い地域、居住が見られない地域はどのような場所だろうか？また、人口の構成はどのような要因が働くことでどのように変化していくのだろうか？ 【学習課題1】地球上で人口密度の高い地域、反対に人間の居住がほとんどみられない地域は、それぞれどのような場所だろうか？ - 教科書P.166の「1 世界の人口密度」を見て、人口密度が高くなっている（凡例の色が赤系統になっている）地域、反対に人口密度が低くなっている（凡例の色が白色になっている）地域はどのような場所かを考える。 - 地球上には居住地域（エクメーネ）と非居住地域（アネクメーネ）が存在し、非居住地域には主に自然環境と関連した様々な理由があることを理解する。	- 隣席、前後の生徒で話し合い、「slido」を用いて全体で共有する。生徒の反応の様子を見ながら、必要に応じて地図帳のP.193-194を参考にすることを促し、確認をする。 「エクメーネ」と「アネクメーネ」の語源について簡単に触れることで語句の定着を図るとともに、非居住地域については具体的なイメージをもてるようにする。				○ 人口密度の高い／低い地域にはどのような場所があるかを考察し、理解している。 【思考・判断・表現】 ○ 非居住地域はどのような場所であるか、その具体例について理解している。 【知識・理解】
展開Ⅱ	5分	【学習課題2】人口はどのように増減するのだろうか？ 人口の増減には、自然増加と社会増加の2つが作用していることを理解する。	‰（パーミル）については初出の単位であるため、その意味となぜこのような単位を使っているのかを補足する。				○ 人口が増減する要因について理解している。 【知識・理解】
展開Ⅲ	25分	【学習課題3】人口の構成は、どのように変化していくのだろうか？また、変化する際にはどのような要因が働くのだろうか？ - 人口構成は、①多産多死型、②多産少死型、③少産少死型、④静止人口～人口減少の各段階があり、①→②→③→④の順番に変化していくことを、図を参考にしながら理解する。 - 各段階は、人口ピラミッドのどれに対応しているのか確認し、理解する。 - 多産多死型から多産少死型へと変化させる要因、多産少死型から少産少死型へと変化させる要因にはどのようなものがあるか、考察し、理解する。 - 人口構成のモデルとその変化の仕方について理解することは、将来の人口構成を予測し、社会資本の整備計画、年金や医療といった制度設計などに役立てることができることを理解する。	- モニターに図を投影し、出生率と死亡率の線を着色することで、その変化が人口の動態にどのようにつながってくるのかを関連付けて理解するための支援につなげる。 - 人口ピラミッドの概要については、中学校時での既習事項を思い出させる。 - 死亡率・出生率が低下する要因にはそれぞれどのようなことが考えられるか、隣席、前後の生徒で話し合い、「slido」を用いて全体で共有する。				○ 人口転換（人口革命）の流れと、人口ピラミッドとの対応について理解している。 【知識・理解】 ○ 死亡率が低下し多産多死型から多産少死型へと変化する要因、出生率が低下し多産少死型から少産少死型へと変化する要因について、それぞれ考察し、説明することができる。 【思考・判断・表現】 ○ 人口構成のモデルとその変化の仕方を理解することで、実際の社会に役立てることができることを理解している。 【知識・理解】
まとめ	7分	【本時の学習課題】を想起し、世界の人口分布の特徴、人口構成の変化の仕方とその要因について振り返りを行う。	教科書の読み合わせを行いながら、本時の学習内容を振り返り、内容を再確認し、基本事項の定着を図る。				○ 本時の学習内容を振り返り、世界の人口分布の特徴、人口構成の変化の仕方とその要因について理解している。 【本時の学習課題に対する課題解決案】地球上には人間の居住する地域であるエクメーネと、気温・降水量・標高などによって制約を受けることで非居住地域となっているアネクメーネが存在する。人口は自然増加と社会増加の2つが作用して増減しているが、社会の発展に伴って様々な要因が働き、多産多死型から人口爆発が生じる多産少死型を経て、少産少死型へと変化するという人口転換（人口革命）のモデルが考えられている。

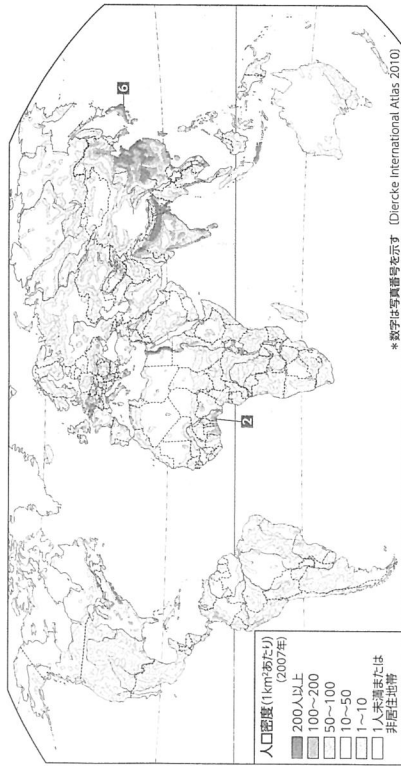
8 評価Cを付けた生徒への手立て

- 授業以外の機会に、生徒と指導者が一緒に、教科書・資料集等の該当ページを再確認し、学習範囲の再確認を行う。
- 関連する新聞記事やニュース、動画サイト、音楽や映画などのコンテンツを紹介することで、興味・関心の喚起を図る。

世界の人口分布には偏りがあり、人口増加の傾向や人口構成も、国や地域によって異なる。世界には、国や地域によってどのような人口問題があり、どのような対策が行われているのだろうか。

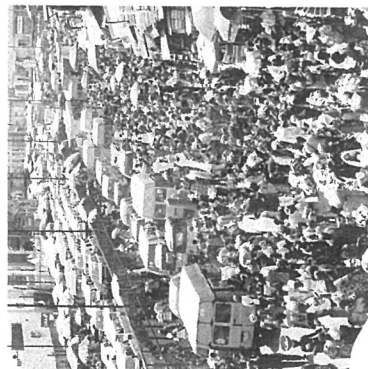
世界の人口

学習課題 ▶ 世界の人口分布や人口増加には、どのような傾向がみられるのだろうか。



→1 世界の人口密度

【読み解き】人口密度が高い地域には、どのような特徴があるのだろうか。また、人間の居住がほとんどみられない地域は、どのような自然環境の場所だろうか。p.65 図3と比較して考えよう。



↑2人や車であふれる通り(ナイジェリア、ラゴス、2017年) ナイジェリアはアフリカで最も人口が多い国であり、2015～2020年の人口増加率は2.6%で、近い将来に世界一の人口を抱えると予測されるインド(1.0%)と比較しても、高い人口増加率となっている。

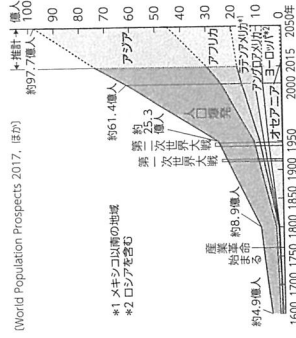
世界の人口分布

人間が常に居住する地域のことをエクスメーネ^{Exumene}といい、地球上には70億を超える人々が生活している。人口密度が高いのは、モンスーンアジアや地中海沿岸、西ヨーロッパ、北アメリカ東部などである(図1)。モンスーンアジアでは多くの人口を養うことのできる稲作農業が古くから盛んであり、地中海沿岸では早くから都市文明が栄え、西ヨーロッパや北アメリカ東部では産業革命が契機となって経済が著しく発展した。他方、乾燥地域や高山地域、極地は人口密度が低く、人間が居住しない地域であるアネクメーネ^{Anekmene}も存在する。

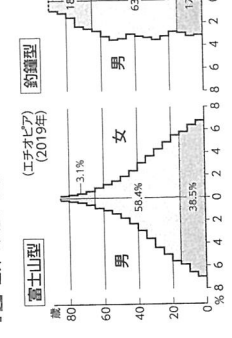
世界の人口増加

世界の人口は、17世紀ごろまではゆっくりと増加してきた。18世紀になると人口の増加が少ずつ急になり、20世紀の後半にはアジアやアフリカ、ラテンアメリカで人口爆発とよばれるほどの急激な人口増加が起こった(図2)。21世紀に入ると、人口増加の勢いはやや弱まったものの、今世紀後半に世界の人口は100億を超えると推計されている。世界の人口増加率には地域差があり、先進国では総じて低く、なかには日本や東ヨーロッパのように減少している国もある。一方、発展途上国では総じて高い人口増加率となっている(図4)。

(World Population Prospects 2017, ほか)



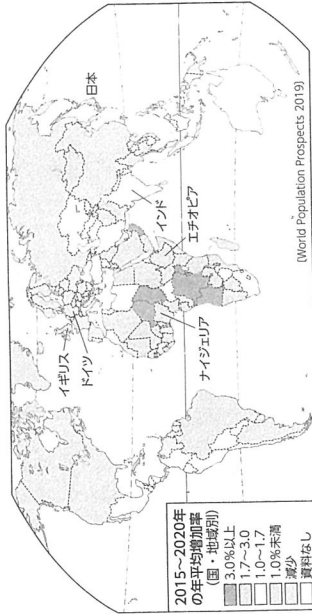
↑3 世界の人口の推移



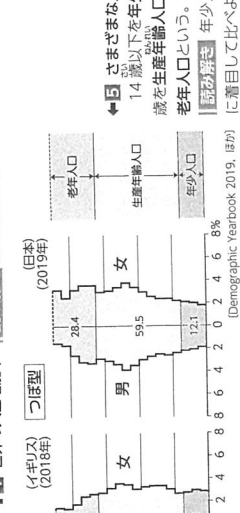
人口ピラミッドからみる特徴

図3のように、ある国や地域の人口を男女・年齢別にグラフで表したものが人口ピラミッドである。人口ピラミッドにはいくつかの典型的な型がある。エチオピアのような発展途上国では、出生率も死亡率も高いため、年齢が若い人口が多く、高年齢者を除いて年齢による人口の差があまりみられない釣鐘型の人口ピラミッドになる。一方、イギリスのような先進国では、高年齢者を除いて年齢による人口の差が低く、両者がおおよそ釣り合っている場合がみられる。先進国のなかには、日本やドイツのように、高年齢者を除いて年齢が若い人口が少なくなつて人口ピラミッドになる場合もある。この型は、出生率と死亡率が低い人口ピラミッドになる場合もある。この型は、出生率と死亡率が低く、なおかつ出生率が死亡率よりも低い場合にみられる。

経済成長に伴って栄養状態や衛生状態が改善され、医療が普及すると、各国の人口には、死亡率が下がり、やがて出生率も下がっていく傾向がみられる(人口転換)。その過程で、出生率よりも死亡率が低い状態が続く時期には人口増加率が高くなりやすい。また、人口転換に伴って人口ピラミッドの形状は富士山型から釣鐘型やつぼ型へと変化する(書き、その過程で人口に占める高年齢者の割合が高くなる高齢化が進む(写真3)。高年齢者の割合は、人口ピラミッドがつぼ型の国で高くなりやすい。



↑4 世界の人口増加率



人口ピラミッドからみる特徴

図3のように、ある国や地域の人口を男女・年齢別にグラフで表したものが人口ピラミッドである。人口ピラミッドにはいくつかの典型的な型がある。エチオピアのような発展途上国では、出生率も死亡率も高いため、年齢が若い人口が多く、高年齢者を除いて年齢による人口の差があまりみられない釣鐘型の人口ピラミッドになる。一方、イギリスのような先進国では、高年齢者を除いて年齢による人口の差が低く、両者がおおよそ釣り合っている場合がみられる。先進国のなかには、日本やドイツのように、高年齢者を除いて年齢が若い人口が少なくなつて人口ピラミッドになる場合もある。この型は、出生率と死亡率が低い人口ピラミッドになる場合もある。この型は、出生率と死亡率が低く、なおかつ出生率が死亡率よりも低い場合にみられる。

経済成長に伴って栄養状態や衛生状態が改善され、医療が普及すると、各国の人口には、死亡率が下がり、やがて出生率も下がっていく傾向がみられる(人口転換)。その過程で、出生率よりも死亡率が低い状態が続く時期には人口増加率が高くなりやすい。また、人口転換に伴って人口ピラミッドの形状は富士山型から釣鐘型やつぼ型へと変化する(書き、その過程で人口に占める高年齢者の割合が高くなる高齢化が進む(写真3)。高年齢者の割合は、人口ピラミッドがつぼ型の国で高くなりやすい。



↑1老人ホームで介護支援ロボットを相手にゲームをする高齢者たち(神奈川県、横浜市)

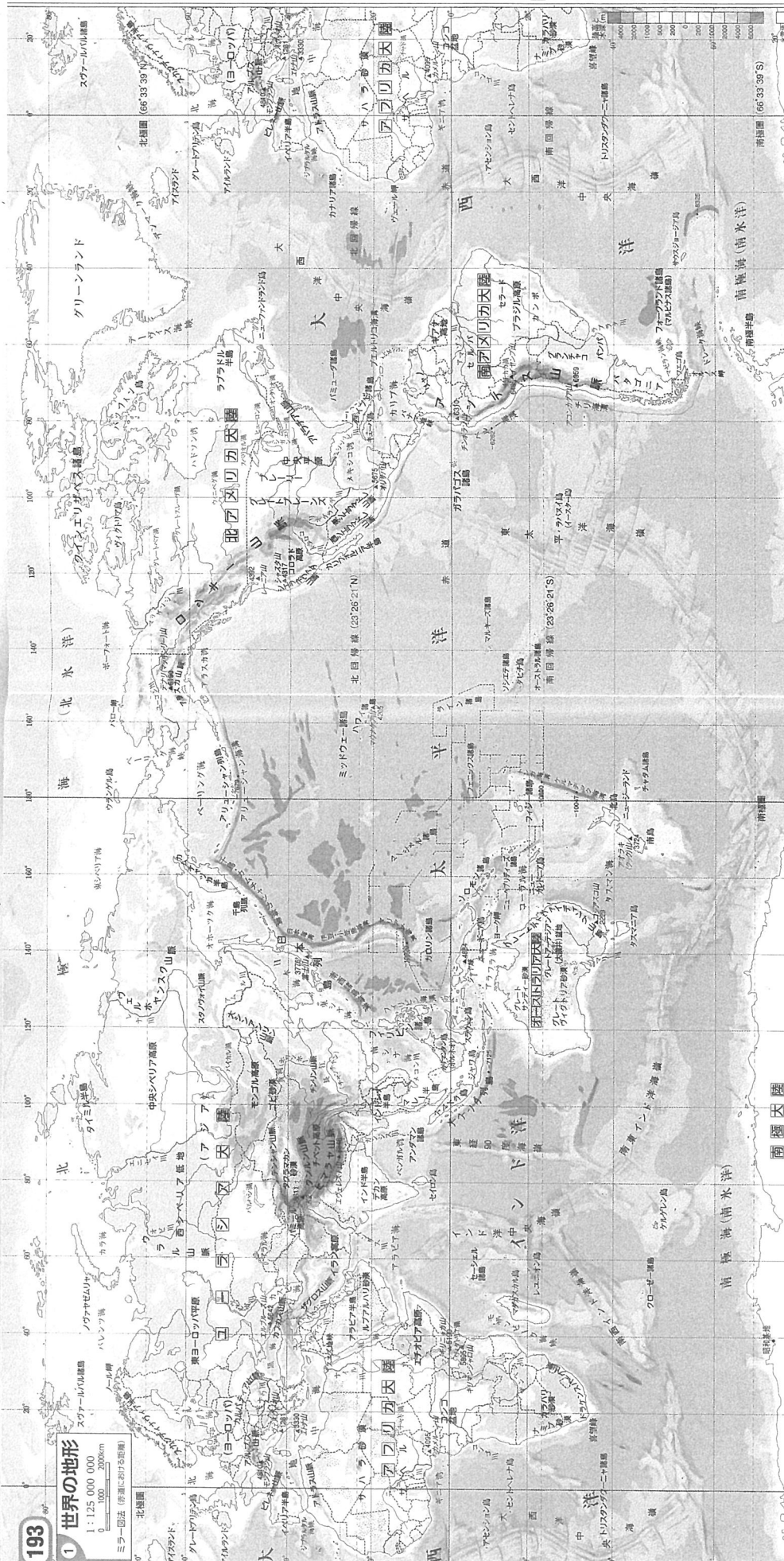
↑2人口転換 人口変動の在り方が、多産多死から多産少死の時代を経て、少産少死へと変化する。

【確認】 20世紀後半に急激な人口増加が起こった地域を挙げよう。

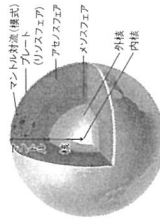
【深い学び】 発展途上国と先進国では、典型的な人口ピラミッドの型にどのような違いがみられるのか説明しよう。

1 世界の地形

スケールバリエーション
1:125,000,000
0 100 200 km
ミラノ法 (標準に合わせる距離)



2 地球内部の構造 (模式図)



(Alexander Gersmangabe 2004, はり)

3 大陸の移動と現在のプレートの分布

① 中生代初期 (約2億2500万年前)



② 中生代中期 (約1億8000万年前)



③ 新生代初期 (約6500万年前)



④ 現在



(Die Grote Boats 2009, はり)

4 世界の地震と火山



5 プレートテクトニクス



6 造山帯と安定陸塊



©世界の人口の分布

【Q】地球上で人口密度が高い地域、反対に人間の居住がほとんどみられない地域は、それぞれどのような場所だろうか？

- (1) [エクメーネ] : 人間が居住し、生活している地域
↑
 - (2) [アネクメーネ] : 非居住地域
 - ・ [寒冷] 限界 : 最暖月平均気温 : 10°C 以上 (= 穀物の栽培限界) とほぼ一致
 - ・ [乾燥] 限界 : 年降水量 500 mm の等値線とほぼ一致
 - ・ [高距] 限界 : 気温・酸素濃度の低下など
- ※ただし、元々の気温が高い赤道周辺では、居住可能な場所も高くなる傾向
ex. ラパス (ボリビア), キト (エクアドル), ボゴタ (コロンビア)

◎人口構成と人口転換

【Ｑ】人口の構成は、どのように変化していくのだろうか？
また、変化する際にはどのような要因が働くのだろうか？

- (1) 人口の増減 = [自然増加] (出生数 - 死亡数) + [社会増加] (流入人口 - 流出人口)
 世界の自然増加率 (2021年) : { 8.2 } パーセント (%) ※ 1% = 0.1% = 1/1,000

(2)人口構成と人口増減の推移

年齢別性別人口構成
（「人口ピラミッド」）の型

出生率⑧・死亡率⑨
→人口は緩やかに増える
ex. 一部の最貧国

変化させる要因にはどのようなものがある？

- ・食糧事情・栄養状態の向上・改善
- ・公衆衛生の改善・医療の普及

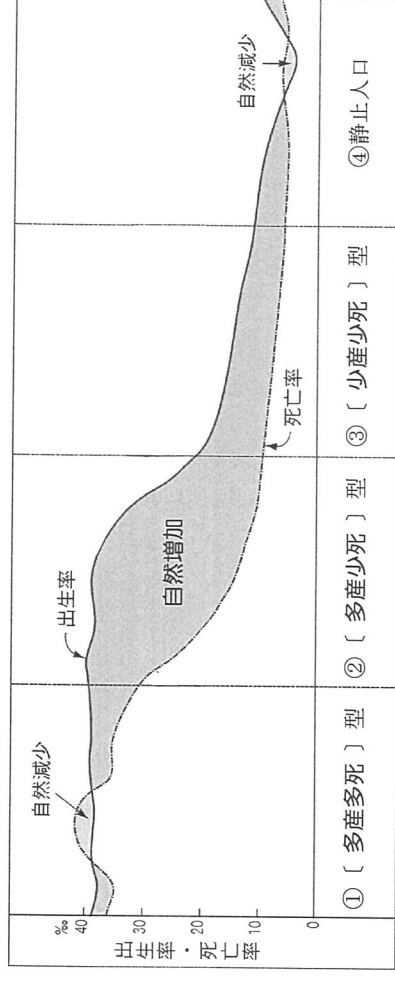
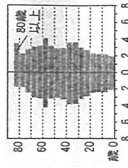
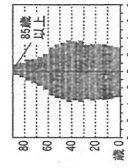
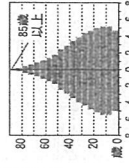
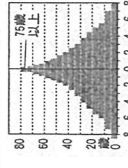
ex. 井戸の掘削→上下水道の整備

②〔多産少死〕型…出生率⑤・死亡率⑥
→〔人口爆発〕が生じ、急激に増加
ex. 南米、東南・南アジアなどの発展途上国

- ・ 産業構造の変化（1次産業→2・3次産業）
- ・ 女性の社会進出・地位向上、家族計画の普及

③〔少産少死〕型…出生率⑤・死亡率⑥
→人口は緩やかに増加 or 停滞
ex. 新大陸の先進国

④ 静止人口～人口減少…人口は停滞 or 長期的には減少
ex. 日本, ヨーロッパの一部



①〔多産多死〕型 ②〔多産少死〕型 ③〔少産少死〕型 ④〔静止人口〕型

(3)産業別人口構成…社会の発展段階や、経済構造を読み取ることが可能

※第1次産業(農林水産業)中心 → 第2次産業(鉱工業)中心 → 第3次産業(サービス業)中心
〔 発展途上国 〕 → 〔 先進国 〕

【演習】 次の産業別人口構成の資料を用いて、下記の三角座標グラフに表中①～⑤国の位置を記入せよ。

国名	実数 (万人)	第1次 (%)	第2次 (%)	第3次 (%)
①アメリカ	141,730	1.6	20.6	77.8
イギリス	28,166	1.3	22.0	76.7
②ドイツ	36,566	2.4	29.8	67.8
③中国	737,400	44.1	17.8	38.1
④韓国	22,856	7.9	26.8	65.3
⑤ブラジル	84,596	21.0	21.0	58.0

構成比は小数第2位を四捨五入

